

(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

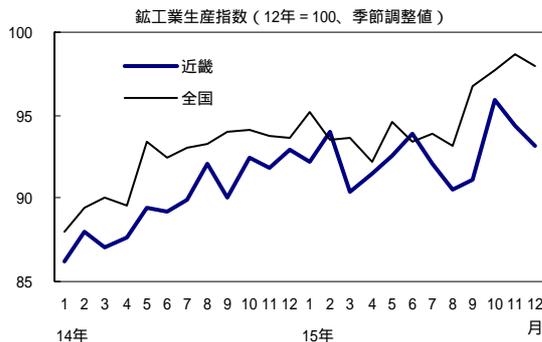
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 15 年 11 月)	今回 (平成 16 年 2 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

一般機械は、10月に外需向けのガスタービンの大型案件、同じく外需向けの反応機器の大型案件などから大きく増加し、その後も、12月には再びガスタービンなどにより増加し、四半期では大きく増加した。化学は、10月に化学肥料などが、11月に医薬品などが増加し、2四半期ぶりに増加した。電気機械は、10月にセパレート型エアコンなどが増加したが、12月には非標準変圧器などにより減少に転じ、期を通してみれば緩やかな増加となった。食料品・たばこは、一進一退の動きとなっており、期を通してみればほぼ横ばいであった。電子部品・デバイス、今期中は弱い動きに終始したが、前期後半の高い伸びにより、前期比プラスとなった。



(備考) 平成 15 年 12 月の近畿は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

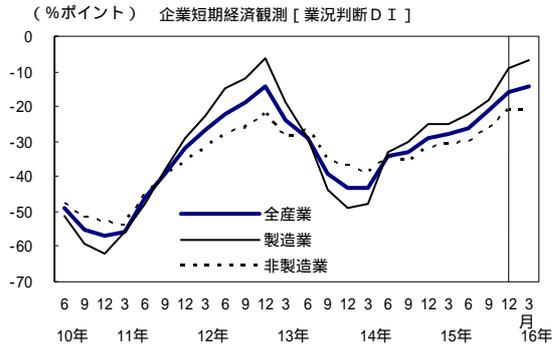
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	15.0	9.2	15.4	15.6	11.2
化学	12.8	7.2	6.7	5.2	2.5
電気機械	10.1	1.7	1.9	7.7	0.3
食料品・たばこ	8.1	2.5	0.3	3.0	21.4
電子部品・デバイス	7.9	15.8	2.2	4.3	1.2
鉱工業	100.0	1.6	3.6	4.5	2.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

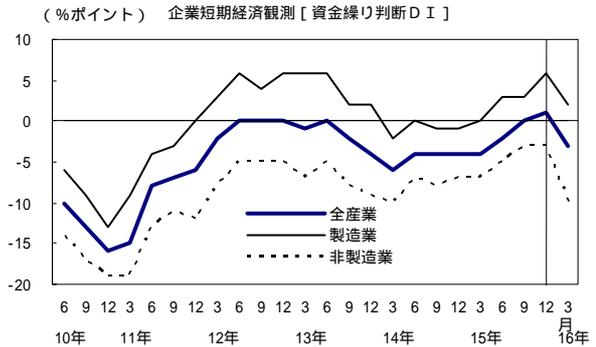
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とがほぼ同数となっている。

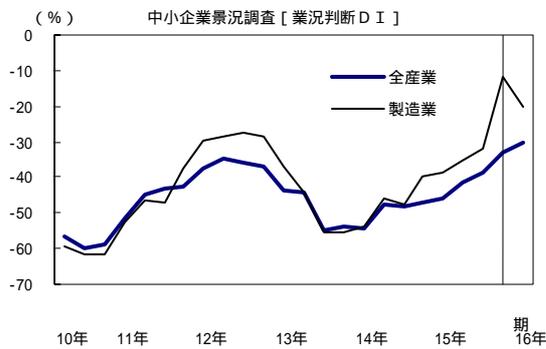
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「この3か月間、売上は前年を多少上回っているが、受注単価の低下により収益が伴わず、業績の回復はなかなか進まない状態である (出版・印刷・同関連産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

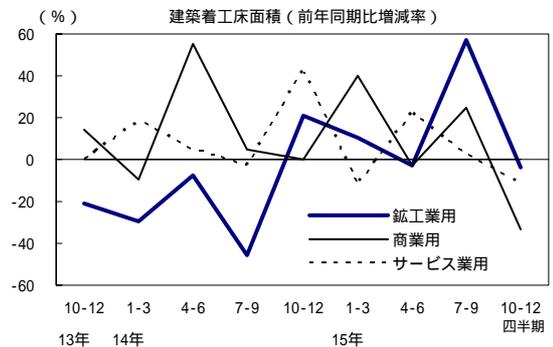
(3) 15年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	11.8	6.0(2.6)
製造業	15.1	14.4(6.0)
非製造業	9.2	0.1(0.0)

(備考)()は前回 (9月) 調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

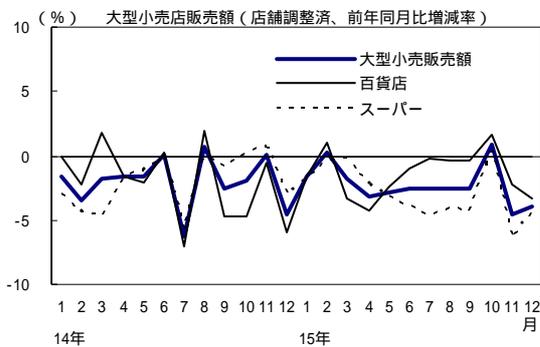
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月はプロ野球の関連セールスの盛り上がりも一部にみられ、8か月ぶりのプラスとなった。11月は気温が高く冬物衣料等の不振から再びマイナスとなり、12月は、引き続き暖冬の影響などで、2か月連続のマイナスとなった。なお、近畿百貨店協会によれば、大阪地区の1月の売上高は前年同月比で0.2%の減となっている。

スーパーは、プロ野球の関連セールスから10月にプラスに転じたが、その後は冬物衣料の不振や野菜の価格低下などから、再び前年割れとなっている。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「週替わりの媒体訴求を強化してきたが、超目玉品のみが好調であった。ただ、バーゲン商材は苦戦していたにもかかわらず、正月福袋は好調に推移した(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

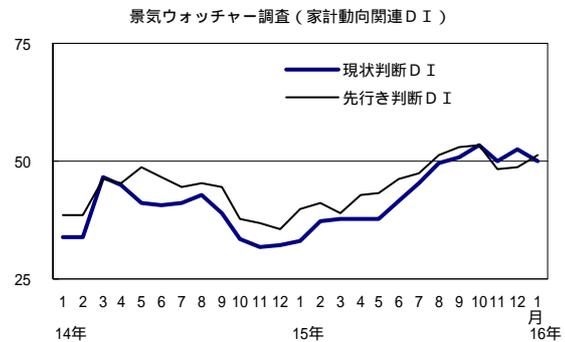
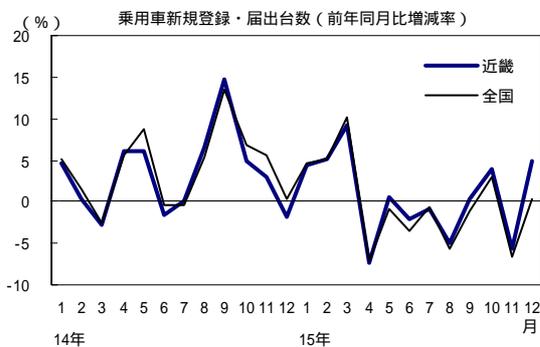


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.2	2.9	2.6	2.7
百貨店	1.6	2.5	0.3	1.7
スーパー	0.9	3.1	4.4	3.6
乗用車	6.9	2.8	1.4	0.9
景気ウォッチャー	36.1	38.9	48.6	51.9

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が減少する一方で、分譲が増加し、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

